



釧路湿原森林ふれあい推進センターでは、自動撮影カメラを駆使した野生生物の調査をパイロットフォレスト等（以下、PF）で行っています。PFは北海道東部、釧路市から北東に五九キロ、牡蠣の産地で有名な厚岸湖に注ぎ込む別寒辺牛川の中流域に位置する国有林です。

昭和31年頃は、開拓時代に火入れの延焼等により原野化した広大な土地（約1万ha）でした。一部の低地は、泥炭からなる湿原地帯です。この不毛の大地に大森林を作る計画が昭和31年から始まりカラマツを造林し、昭和41年までの十年間に約8千haに及ぶ大造林地を作りました。

このPFの一部は、タンチョウを保護する区域として林野庁が保護林に指定し、管理しています。動物調査は、林道などの脇に自動撮影カメラを設置します。PF周辺には、全部で

6箇所（第一〜第六地点）に設置しています。第一地点では、パパパンと鳴る爆竹を鳴らしてから、あたりをキョロキョロしながら、設置しにいきま

す。

なぜなら、この地点では、熊がひんぱんに通るからです。

自動撮影カメラは撮影した時間を記録します。また、このカメラの設置期間は三週間で、一週間毎に設置状況の把握のため、今日は何月何日と書いたボードを持って自らカメラに写り込みます。昨年は、職員が写り込んだ2時間前に熊が写った写真がありました。第四地点では、タンチョウがよく写ります。



自動撮影カメラにより撮影されたヒグマ

右は「鶴の恩返しをする前」左は「鶴の恩返しをした後」の鶴のように見えますが、右が成鳥で左が幼鳥です。）

この地点は、エソシカ、エゾタヌキ、キタキツネ、タンチョウ、ヒグマがよく写ります。たくさん動物達が、時間を変えてこの地点を利用していているのが分かります。このように豊かな動物



上の写真は左右どちらもタンチョウの写真です。同じ箇所ですが、撮影日時は異なります。

保護区内では、のびのびと子育てをしています。

相が見られるPFですが、林業生産活動も活発に行われています。植栽後60年近くを経たカラマツを毎年1万㎡以上生産しています。伐採は、ハーベスタなどの事業用大型機械により行っており、高性能機械の見学場所として、多くの関係者が訪れています。

PFでは、このように新たに作られた森林が長い時間をかけて豊かなものとなって、林業活動とも調和している姿を多くの方に見ていただけるよう、毎年7月頃、期間を決めて一般開放しています。（平成29年度は、7月30日・31日）

解放中は、森林造成の経緯のビデオや昭和三十年頃使用した機械も見る事ができます。

この機会を利用して、高さ24mの火のみ櫓（望楼）に上り、カラマツの森林を見て、森林造成の苦労や動物の営みを想像してみませんか。